

お茶で環境問題解決を

お茶やお茶Bottle・お茶の木について学びながら、地域イベントや学内イベントに参加し、コミュニケーション能力や実践力・主体性を身につけることができます。また、通常の講義では体験できないような事がこの度会カフェリョクプロジェクトでは多く経験できます。

メンバー数：11名
活動場所：度会町
実施主体：度会町役場
担当教員：藤井 恭子（現代日本社会学部）
活動年度：H28, H29, H30, R01, R02, R03, R04, R05, R06, R07



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

本活動は、若者を中心にお茶への関心を高めるとともに、地域産業への理解深化や環境負荷の軽減を目指して実施されました。現在は、以下の4つのプロジェクトを軸に多角的な活動を展開しています。

1. 宇治山田の和紅茶プロジェクト

本プロジェクトでは、伊勢茶を使用した和紅茶「宇治山田の和紅茶」の普及活動を行いました。月に1回、伊勢河崎商人館にて試飲会を兼ねた販売会を実施し、来場者に直接その魅力を発信しました。地元の茶葉が持つ豊かな風味を体験していただくことで、地域特産品への愛着を育むとともに、和紅茶という新しいお茶の楽しみ方を提案する機会となりました。

2. お茶Bottleプロジェクト

本プロジェクトでは、お茶バックやリユース可能なボトルの販売を通じ、若年層へお茶文化を浸透させる活動を展開しました。利便性の高いペットボトル飲料が主流となる一方で、手間のかかる「茶葉からお茶を淹れる文化」は敬遠されがちです。こうした課題に対し、手軽な「お茶バック」と、自宅で淹れたお茶を外先へ持ち歩ける「専用ボトル」を提供しました。販売時には、茶葉の種類による違いや淹れ方で変化する風味の奥深さを丁寧に解説し、お茶を「日常的に楽しめるもの」として再定義しました。また、マイボトルの活用はプラスチックごみ削減への意識向上にも繋がりが、環境負荷の軽減に貢献する活動となりました。

3. お茶の木プロジェクト

本プロジェクトは、皇學館の大学生・生徒がお茶の木を育てる実体験を通じ、地域産業への理解を深めたり、将来を担う人材育成を目的としています。若者の間でお茶文化が身近でなくなっている現状を受け、実際の栽培工程を経験する場を設けました。自らの手で育てることで、お茶の歴史や栽培方法に関する知識を実践的に学ぶとともに、大学と高校が緊密に連携することで学校間のつながりも強化されました。次世代へお茶文化を継承し、地域活性化に寄与する取り組みとなっています。

4. 陶器Bottleプロジェクト

本プロジェクトでは、地元企業の「三重NARUMI」様と協力し、伝統と技術を活かした「陶器ボトル」の開発・展開に取り組んでいます。使い捨てではない、環境にやさしいボトルづくりを目指すとともに、陶器ならではの質感や温もりを通してお茶を飲む時間を豊かに演出します。地場産業と連携したこの試みは、持続可能な社会の実現と、地域のモノづくりの魅力を再発見する活動になっています。

月別活動

- 4月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
- 5月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・ミーティング（お茶Bottleプロジェクト）
- 6月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・3回ミーティング（お茶Bottleプロジェクト）
- 7月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・ミーティング（お茶Bottleプロジェクト）
・ミーティング（陶器Bottleプロジェクト）
- 8月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
- 9月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
- 10月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・2回ミーティングや販売にむけての準備（お茶Bottleプロジェクト）
・ミーティング（陶器Bottleプロジェクト）
・皇學館高校の方とミーティング（お茶の木）
・倉院祭での販売（お茶Bottleプロジェクト）
- 11月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
- 12月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・ミーティングや販売にむけての準備（お茶Bottleプロジェクト）
・三重NARUMIでの販売（お茶Bottleプロジェクト）
- 1月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・西南学院大学とのオンライン交流発表会にむけての準備（お茶Bottleプロジェクト）
・西南学院大学とのオンライン交流発表会（お茶Bottleプロジェクト）
- ~2月・河崎台所市で販売（宇治山田の和紅茶プロジェクト）
・三重県農業研究所茶業・花種木研究室大台試験地（お茶の木プロジェクト）

活動を通して学んだこと

マイボトルによるプラスチックペットボトル削減効果、お茶についての知識、地域イベントについて。

実施主体からのコメント

度会町役場 ご担当者様

活動を通じてお茶をもっと多くの人に飲んでもらいたいです。また、この活動を通して様々な視点で物事を考えることを学んでほしいです。



担当教員より

現代日本社会学部 藤井 恭子

平成28年に開始した本プロジェクトは、今年度で11年目を迎え、「宇治山田の和紅茶プロジェクト」「お茶Bottleプロジェクト」「お茶の木プロジェクト」「陶器Bottleプロジェクト」の4つへと広がっています。「宇治山田の和紅茶プロジェクト」と「お茶Bottleプロジェクト」は、先輩方の試行錯誤によって基盤が築かれました。一方、「お茶の木プロジェクト」と「陶器Bottleプロジェクト」は、現メンバーがアイデアをブラッシュアップしている最中です。本プロジェクトは、多くの方々の温かいご支援に支えられ、現在も継続しています。この結びつきを大切にしながら、次年度もさらなる進化を遂げていくことを期待しています。



- ・コミュニケーション能力をつけたい人
- ・問題解決能力をつけたい人
- ・お茶について知りたい人
- ・地域の方と交流したい人。

成果物 / 制作物